

研究主題

生きる力を育む授業の創造

～できる力を最大限に活用 する指導方法の展開～

北九州市立大谷中学校
学力向上推進委員会

1 主題設定の理由

本校では確かな学力を「生きる力」すなわち、①たくましく生きるための健康や体力、②自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し課題を解決する資質や能力、③他を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えます。

この「生きる力」は 基本的な生活習慣が 定着し、日々の教育活動から身に付けさせる 基礎的・基本的な学力から育まれるものである。この「生きる力」を育むため本主題を設定した。

2 研究の仮説

「生きる力」を支える基礎的・基本的 な学力を定着させ、それを活用できる能力を育成するため仮説を立て検証した。

- ・朝自習を反復学習の場とし 実践すれば、基礎的・基本的な学力の定着が促進され、授業の「めあて」を明確にすれば、生徒の課題意識や目標の指針となり、学習意欲が向上するであろう。
- ・教師と生徒間の信頼関係を構築することで、個に応じた授業計画や実施が取り組みやすくなり、放課後教室や家庭との連携を推進すれば、自主的な学習に意識が向くであろう。

3 研究の実際

(1) 生徒の実態

現在2、3年生（平成18年度の1、2年生）の生徒を対象に「学習内容の理解」と「家庭での学習時間」について調査した。「学習内容の理解」では2、3年生共、学習内容を理解できている生徒が増加してきているのわかる（図1）。しかし、今の3年生で50%を越えているのを除けば各学年とも半数の生徒が理解していない、と答えている。このことから、学習に対する意欲や関心、理解を支える手立てを講ずる必要があるといえる。

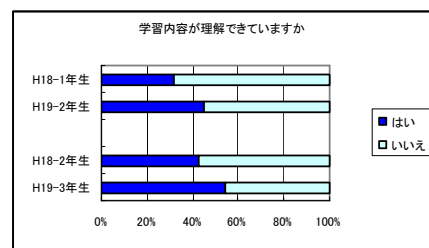


図1 学習内容の理解

(2) 「確かな学力」向上のための方策

①授業時の「振り返り学習」と「今日のめあて」の徹底（写真1）

生徒の学習理解を定着させるために、授業の導入時に「前時の学習内容」を確認することを徹底することでスムーズな学習理解を促すことができる。さらに「今日のめあて」を提示することで前時の学習との繋がりを深め、学習内容を明確にさせることができる。「何を勉強しているのかわからない」という生徒の意識を変えるためにも「今日のめあて」の効果は大きいと考えられる。

②生徒の基礎的・基本的学力の向上を定着させる取り組み

朝自習を基礎的・基本的学力 定着の一環と捉え、教科の基礎的な学習内容を反復学習する時間



写真1 完成！みたらし団子

として活用してきた。本校では5教科（国、社、数、理、英）を1週間ずつ連続して実施し、最終日の学活の時間に確認テストを実施している。ここではどのクラスでも朝自習を取りこぼすことなく実施し、確実に点検・返却することを徹底した。さらに、生徒のプリントにコメントを付け、褒めることを行い、生徒のやる気を促してきた。

また、家庭学習に対する意識付けが必要と考え、保護者との連携に取り組んできた。校長室だより、学校通信、学年通信や学級通信を発行し、保護者会やPTA行事で家庭学習の必要性を繰り返し伝え、保護者の協力体制を求めてきた。

③カウンセリング記録を生かした個に応じた指導

生徒の学校生活の様子や家庭での生活状況は、学力に大きな影響を与えられ。そのため、年に3回程度生活状況調査や教育相談アンケートを実施した。これは学習塾への通塾率や家庭での時間の使い方など学習に関するものから、携帯電話の所持率や食事の摂り方などの生活に関するものとした。生徒の学力向上に関して、学校や家庭での生活状況を把握することは極めて重要である。日々の学習や学力向上は落ち着いた生活と環境の上に成り立つものである。

④CRTテストの観点分析した授業方法の工夫・改善

CRTテストの観点別における生徒のつまずきを分析し、各単元における評価観点を明確にした上で指導方法の工夫・改善を図り、学力の伸長を目指してきた。学力が充分でない単元や領域には少人数指導やTT授業、習熟度別授業を取り入れ基礎学力の定着を進めてきた（写真2）。また生徒個人の興味・関心に応じたクラス分けや選択教科も積極的に取り入れ、得意な分野を伸ばし、不得意な分野を克服する授業計画を進めてきた。



写真2 なぜ膨らむのかな？

3 研究の成果と課題

（1）研究の成果

- 基礎的・基本的学力が定着し始めてきた。
- 学習内容に対する理解が進んだ生徒が増加してきた。
- CRTテストの得点率があがってきた。
- 朝自習時間が静粛になり、宿題の未提出者が減少してきた。

（2）これからの課題

- 学校、家庭での生活を総体として捉え、学習環境と学習習慣の影響を分析する。
- 教師の指導方法が生徒の学習意欲にどう影響するのかを調査、分析する。
- 継続的に、個に応じた指導の方法と効果を研究する。
- 家庭学習の定着促進のため、保護者との効果的な連携について考察する。